

様式 11 評価テーマに対する提案

ひと・まち・風景が連なる『くまの輪』



A 団地全体と背景のやまなみが「連なる」ことでまちの風景をかたちづくる

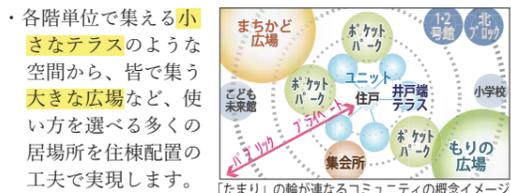


B「まちかど広場」と3期棟 C道・広場・山へと視線が繋がる雁行配置 D賑わいが出るバルコニー E緑豊かな森へと開けた1期棟 F「抜け」のある構内フットパス Gトランクルームの隙間から漏れる柔らかな光 H「もりの広場」と集会所 218cm×137cm=299cm

テーマ1『持続可能な団地コミュニティの形成』について

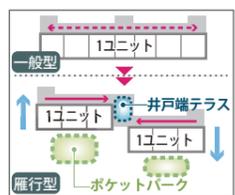
様々なスケールの『たまり』をつくり、まちへと広げる

世代間交流を育むコミュニティを形成するため、住民同士が顔を合わせて集える様々な大きさや性質を持った「たまり」の場を各所に設けます。その「場」が団地を越えて広がり、まちを活気づかせます。



小さな「たまり」

住棟の「ずれ」がつくる居場所。各フロアのEVホール前には住戸ユニットのずれにより生まれた「井戸端テラス」を設け、身近な交流が図れる場とします。



各住棟ユニットの前には「ポケットパーク」を設け、菜園に使ったり、緑を育てたりできる住民参加の多用途空間を用意し住棟を越えた交流が図れる場とします。



活動の核となる「たまり」

自治会や子ども会の活動の核になる木造の集会所は、世代間を超えた交流が図れるみんなのリビングとして敷地の中央に配置します。縁側を設け、送迎バスの待合場としても活躍します。



「たまり」の輪をまちとつなぐ「ミクストコミュニティ」

- 周辺に広がる「みどり」を引込み、フットパスをつなげます。
小学校までの通学路をつなげ、見守りのコミュニティを築きます。
広場へ続く景観軸が帰ってきたくなる心象風景を演出します。
熊野団地全体へと「たまり」の輪がつながり、緑や活動や風景と混ざり合い地域の「ミクストコミュニティ」を実現します。



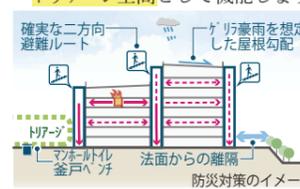
ファミリー層にやさしい住宅

- 明確な歩車分離を図り、安全な位置に児童遊園を整備します。
車でEV近くまで寄りつける車寄せロータリーを設けます。
駐車場側は見通しが良く、部分的にピロティとすることで防犯性を向上させます。
熊野の最頻風向(南南西)の風が通りやすい住棟配置とします。
各住戸の床の表面材に県産材の使用を検討し、積極的に内装木質化を図ります。



防災への意識を高める

- 土砂災害エリアを回避し、法面から建物を離れた配置とします。
1棟に3つの階段を設置し、避難時にも安全な動線を確認します。
マンホールトイレや金戸ベンチ等を整備した広場は、有事の際にトリアージ空間として機能します。



テーマ3『地域のまちなみに調和した景観形成』について

豊かな周辺環境へ開き、まちの風景をかたちづくる

快適性と機能性を両立する配置計画の検証

- 敷地南東側にかけて広がる豊かな自然環境に対して住戸を開くこと、合理的に駐車場を確保することを両立させる配置計画とします。
住棟同士を平面的に重ねないことで、全住戸が豊かな環境を享受でき、駐車場から住棟へもアクセスしやすい『中央集中型』を採用します。

Table comparing four housing types: ツリー型, まわりこみ型, 1・2期集中型, and 中央集中型. It evaluates them based on living conditions, convenience, and safety.

熊野の風景に連なる

- ユニット毎に分節された住棟ボリュームが抜けと余白をつくり圧迫感を軽減し、風と光を敷地内に引き込みます。
住宅地側から徐々に階数を上げ、熊野の盆地の風景に連なる緩やかな「やまなみ」を意識したボリューム設定とします。



賑わいをまちへと表出する

- オープンなリビングバルコニー(ベランダ菜園等)とセミクローズなサービスバルコニー(室外機や洗濯物の目隠し)を各住戸ユニット毎に設けます。
パッチワークのようにランダムに分節化されたデザインとすることで賑わいの表情がファサードを彩ります。
森へと開く1期棟はより開放的なバルコニーとすることで表情を変えます。



敷地の特性を最大限に活かす雁行型の住棟配置

不整形な敷地形状を最大限に活かすため、住棟を敷地に沿って「雁行」させて配置します。余白部分がオープンスペースとなり、リズムカルに連なる住棟が適度な「抜け」をつくります。低層部分をあえて設けず「中・高層型」の住戸配置とすることで、限られた敷地の中で高密度化し、まとまった余剰地とゆりのある広場が確保できる住棟配置とします。



テーマ2『実現性の高いコストの縮減策』について

小さなことの積み重ねでコストを抑える

- 縦方向のプランの同一化により耐力壁付きラーメン構造を採用します。梁断面を小さくすると同時に階高も抑え、最もコストがかかる躯体ボリュームを最小限にできます。
盛替え工事を1期で行いロスなくします。
住棟を高層化し屋根と基礎の面積を小さくすることで躯体と防水のコストを削減します。

日々のランニングコストを抑える

過去に実績のある防汚性の高い外壁塗装材や省エネ型ガス給湯器、節水型洗浄便器等を採用し、修繕費と入居者の負担を確実に軽減します。

Table showing estimated construction costs (総工事費) broken down by phase (1st, 2nd, 3rd) and total, including categories like building work and equipment.

Table showing unit types (1DK, 2DK, etc.) and their counts across different phases of the development.